

令和3年度 愛媛県がん診療連携協議会 第1回 幹事会 議事録

開催日時：令和3年4月22日（木） 18：00～19：30

開催形式：WEB会議 四国がんセンター地域医療連携研修センター研修室①からの発信

司会進行：四国がんセンター 幹事長 河村 進

出席者：資料1「幹事会名簿」

議題

開会の挨拶 四国がんセンター山下副院長（谷水協議会会長欠席のため代理）

新型コロナウイルス感染症の対応で大変な状況の中、またお忙しい中ご参加頂きありがとうございます。盛り沢山な内容ではありますが、コンパクトに進行させて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

1. 令和3年度幹事会 自己紹介・名簿確認（資料1）

自己紹介 WEB開催の為割愛、新規会員のみを紹介

20200808 役員会議事録（資料2）

例年通りの集合形式の専門部会はコロナの状況下でおこなうことができなかったが、役員会と、専門部会からの報告を同時に、Web会議として開催した。

20201008 幹事会議事録（資料3）

第1回の幹事会（2020年4月）はWeb会議として開催したが、第2回は、審議事項があまりなかったことから、10月8日～10月14日の期間において、メール審議とした。

2. 協議会活動 2020年度年間スケジュールと2021年度年間スケジュール案（資料4、5）

- ・今年度中の開催協議会について

4/22（木）第1回幹事会（本日）

Web開催のため、例年より30分繰り上げて18時から開始している。

8/7（土）役員会および専門部会報告会

例年通りでは、午前に役員会、午後に専門部会と総合報告会を開催しているが、今夏も昨年と同様にWeb開催の予定である。

10/7（木）第2回幹事会

12/4（土）第2回専門部会および報告会

これらの会議についても例年通りのスケジュールで提示しているが、コロナの状況によっては、Web会議形式での開催となる。

・2021年度の協議会年間スケジュール（案）について

2021年度の役員会・幹事会・専門部会の日程について、事務局施設よりいくつか候補日を提示した。例年の問題点は、役員会の日程における愛媛外科会との調整であるが、特に問題がなければ、事務局施設で決定し皆様にご意見を伺う。最終決定は今年度10月の幹事会となる。

<愛媛県立中央病院>

今年度の役員会の日程が自施設のPEACEの開催日程と重なっている。

<河村幹事長>

役員会の日程について、事務局施設で協議会会長と再度検討させて頂く。

3. 報告事項

1) 拠点病院

<河村幹事長>

都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会が2020年11月25日にWeb開催された。その中で、コロナ禍での各県の協議会開催状況というアンケートの結果報告がされているが、詳細は、国立がん研究センター、厚生労働省のホームページで確認できる。また、令和3年3月29日付でがん診療連携拠点病院等の指定についても公開されているが、今年度は、愛媛県に関しては対象ではないが、地域がん診療拠点病院が10施設、新規指定されている。これについても、ホームページで確認できるので、ご参照下さい。

2) PDCA 部会（資料6）

<PDCA 部会 青儀副部会長>

PDCA 部会は2年前に発足しているが、活動内容としては、PDCA 活動を推進し県全体の医療提供体制のレベルアップを目指している。いろいろな臨床指標をつかって各施設における診療体制の充実を目指すというところで、具体的にいくつかの臨床指標を用いており、東京大学水流研究室で行っているがん診療体制における質評価指標、国立がん研究センター東先生のがん登録を用いた質評価指標、四国がんセンターにおいてはNHOの臨床指標、等が挙げられる。新たに県独自、施設独自の臨床指標を設定することも活動の一旦として行っていきたいと考えている。こういった活動にPDCA 部会を定期的に開催してメンバー間での情報共有をおこない、ブラッシュアップにつなげていく。また、3年に1度の施設間の相互訪問評価については、昨今の事情もあるので、方法を考えながら再開していきたい。

毎年末に行っている東京大学の質評価指標の集計結果として診療体制の推移を紹介するが、年度ごとに少しずつ右肩あがり（改善）になっていることがわかる。昨年度は各施設に1 同意説明文書の改善、2 診療ガイドラインの閲覧システムの構築、3 外来での患者の情報共有の改善、4 自由課題、を課題として提案し、活動してきたが、3 外

来での患者の情報共有の改善について、未完成となっており、今年度の具体的な課題としては1 臨床指標によるPDCA活動、2 Webによる施設間ピアレビュー、3 各部署のPDCA活動促進、等について活動をすすめていきたい。また、QI調査のデータについても利用できる状況であるので、臨床指標のひとつとして共有していく予定である。患者さんのご体験から病院のクオリティを問い直すということで、患者体験調査を利用して施設のPDCA活動につなげられないか、という検討もおこなっている。

《質問特になし》

3) がん地域連携専門部会（資料7）

＜がん地域連携専門部会 橋根部会長＞

昨年の活動報告

Web 会議を2回開催し、連携担当者等により主に以下のような内容で各施設の状況について確認をおこなった。

・コロナ禍での対応と診療状況

面会の制限、発熱外来の設置の有無、オンライン処方、面会ができない家族への対応、地域連携パスの使用、等。カンファレンスの実施については、Web を利用している施設もあり、今後も、Web カンファレンスを一つの方法として継続的に利用できるとよいという意見が多かった。

・コロナ禍での研修

・クリニカルパスの使用推進

クリニカルパスの各施設の利用状況についてはホームページに掲載しており定期的に更新しているが、更に推進していくためにはどのようにすればよいか、検討している。

・地域医療ネットワーク（ICT）

市立宇和島病院が先駆的におこなっているので、参考にしながら、各施設ですすすめている。愛媛大学、松山赤十字病院においても進んで実施している。また、導入施設についても、検討をすすめている。

・かかりつけ医の取り組み

今年度の活動予定

- ・コロナ禍でもがん患者さんが安心して医療が受けられる対応に取り組む。
- ・WEBでの退院前カンファレンスでのセキュリティを担保した対応。
- ・セカンドオピニオン、家族面談をリモートで行う際の柔軟な対応。
- ・がん地域連携パスの推進

コロナが収束してからの課題

- ・地域医療ネットワークシステムの活用（訪問が必要となるため）

《質問特になし》

4) 緩和ケア専門部会（資料 8）

＜緩和ケア専門部会 成本部会長＞

・以前はグループワークで実際の活動状況や問題点について討議を行っていたが、昨年度は Web 会議形式で、また、各施設を 6 グループに分けあらかじめ提案されたいくつかのテーマの中から各施設それぞれが選択しておこなった PDCA 活動についての報告と意見交換をおこなった。また、各拠点病院、推進病院、緩和ケア病棟の医療用麻薬の使用量報告（ベテル病院中橋先生より）についても共有した。

・今後の活動について

緩和ケア専門部会は、日々の活動をとおして、緩和ケアの質の向上を目指していく。

また、PDCA 活動については、今後も継続しておこなっていく。

・PEACE 研修会の開催について

コロナの感染拡大状況により昨年は中止となったが、拠点病院の要件や研修医の指導等の問題があり、今年度は各施設内限定で開催することとした。四国がんセンターは院外からも受講者を受け入れて開催する予定であるが、コロナの状況等により 3 月の開催予定が 6 月に変更となっている。各施設の皆様もコロナの状況等で調整がしづらい状況であると思われるが、何か情報等あれば、共有して頂けるようお願いしたい。

《質問特になし》

5) がん相談支援専門部会（資料 9）

＜がん相談支援専門部会 灘野部会長＞

・昨年度の活動報告

がん相談支援専門部会議事録参照

専門部会を Web 会議で開催している。

広報ワーキング 11/8 図書館で出張相談を実施した。4 病院から 5 名の相談員が参加。

相談員研修ワーキング 11/14 Web ではじめて QA 研修という研修会を開催した。グループワークが含まれており規模の大きな研修会であったが、県内から 18 名、県外から 15 名の参加を頂き、盛会に問題なく終了した。今年度も開催予定である。

3/14 に予定していた健康フェスタ 2020 in 新居浜（住友別子病院主催）は、コロナの影響で中止となった。

チェックリストワーキング 相談支援活動に対する PDCA サイクルを回すという目的で、5 年前から、チェックリストを作成し、毎年、そのチェックリストを用いて業務内容のチェックを行っている。チェックリストの見直しをおこなった後に課題を抽出し、改善に取り組むという活動をおこなっているが、これについては継続していく。今後の課題として、課題評価について、施設内での課題であるため、病院間での課題評価が

必要と思われる。

・今年度の活動予定

災害ワーキング 5月に連絡網を確認するためのシミュレーションを実施する。

災害時に、相談支援部会として県内の情報共有が必要ではないかと考えられる。院内、地域内における情報共有、他病院の情報を収集する方法の確認等。

広報ワーキング コロナで広報活動がおこなえないと思われるため、がんサポートブックえひめについて、来年度の改訂版発行を目指して改訂作業をおこなっていく。

相談員研修ワーキング 秋に Web で研修会を開催する。

各施設の相談員は指導者研修や国立がん研究センター主催の研修会等、いろいろな研修に参加する必要があるため、各拠点・推進病院の先生方には、相談員が研修に参加しやすい環境づくりにご協力をお願いします。

《質問特になし》

6) がん登録専門部会（資料 10）

＜がん登録専門部会 寺本部会長＞

報告事項

・昨年度の活動報告

がん登録専門部会議事録参照

全国がん登録のデータ登録状況 昨年末の段階で拠点・推進病院全てにおいて提出済み。

院内がん登録に長年貢献してきた方で、住友別子病院の越智さん、済生会今治病院の矢野さん、松山赤十字病院の田村さん、市立宇和島病院の山田さん、の4名が日本がん登録協議会より実務者功労者表彰を頂くことが決定し、今年の6月に表彰される。

コロナの影響で5大がん実務者研修ができなかった問題から、2月に Web 形式で開催した。例年は県外からも合わせて70～80人の参加であったが、Web で開催したことで、今回は120名の参加があった。

国立がん研究センター等から提供される資料を Web で e-learning 形式によって皆で供覧して話し合いながら見る、という会を2回開催した。資料の準備も簡単なので、新しい時代の研修形式ということで継続できるのではないかと。また、コロナで集合研修ができなくなったが、Web では日本全国のいろいろな研修会に自由に参加できるので、研修の枠が広がった、という利点があった。また、がん登録部会では、Moodle（オンラインで研修をおこなうための四国がんセンターで使用している教育ソフト）を使って、研修をおこなっている。

今後の実務者研修に関して、人材育成ワーキング（仮）を立ち上げた。

「がん登録専門部会活動検討委員会」愛媛県の腫瘍登録士とがん登録専門部会が協力して仕事をわけ合い今後の研修や解析の仕方を考えていく、という会を中心に、今後のがん登

録専門部会の活動については考えていきたい。具体的には、1 研修会企画・運営グループ
2 学び方・教え方～私はこうしています～ 3 日常業務悩み相談（施設間交流）グループ
4 はじめての試験対策グループ 5 勉強会グループ 6 愛媛県の院内がん登録データ利活用グループ の6グループで構成している。各拠点・推進病院の皆様には、がん登録専門部会のこういった活動にご理解を頂けるようお願いします。

院内がん登録で愛媛県の2016年、2017年の罹患のデータが2月に公開された。

一般的な公開データに加えて、愛媛県では独自に施設別の占有率についても検討している。

「がん登録でみる愛媛のがん診療」の冊子についてはもうすぐお届けできる。

全県集計についてもすすんでおり、5～6月には協議会のホームページで公開できる。食道、子宮については新規の集計となる。

法改正により、全国がん登録から返ってくる予後情報が、院内がん登録に使えないという問題がおこっており、愛媛県のがん登録専門部会、がん登録協議会からも厚生労働省や大臣にはたらきかけをおこなった。

E-CIP～がんサポートサイトえひめ（がん登録専門部会とがん相談支援専門部会合同）

病気を知る 子宮頸部 公開済

あなたを支える いたみを和らげる 公開済

*南海放送ラジオで、ベテル病院の中橋先生から紹介して頂いた。

昨年度のアクセス数 12,000件

ユニークアクセス数 4,400件

もう少しアクセス数が増えるとよい。更なるご利用をお願いしたい。

今後の予定

2020年4月施設データ収集済み 順次更新予定

院内がん登録データ 2019年版に更新予定

膵臓 公開準備中 最終データチェックの依頼予定

前立腺 愛媛大学に依頼済み GW明けに初回原稿を頂ける予定

医療者向けページを作成する

えひめのがんについて知っておきたい数字 がん登録でみる愛媛のがん診療、の全県版

がん診療の質 PDCA部会のデータなどのうち市民向けのを掲載予定

愛媛県のがん検診 愛媛県と相談してすすめていく

《質問特になし》

7) がんの集学的治療専門部会（資料 11）

<がんの集学的治療専門部会 青儀部会長より>

がんの集学的治療専門部会は、4本柱で活動をおこなっている。

- ・ 薬薬連携
- ・ ゲノム情報を用いたスクリーニングシステム
- ・ HD 暴露対策
- ・ 検討課題

薬薬連携 免疫チェックポイント阻害剤の副作用としての irAE マネジメントシステムの構築について、松山赤十字病院の村上先生を中心に、地域での連携について取り組んでいる。

四国がんセンターの薬剤部で、10年前におこなった薬薬連携の実態調査について再調査をおこない、解析中である。

ゲノム情報を用いたスクリーニングシステム 組織だけではなくリキッドバイオプシー検査でスクリーニングができるようになった。リキッドバイオプシー検査の保険承認についても間もなくであり、そういった情報や、FGFR、HER2、TMB-H、MET 遺伝子異常の治験、医師主導治験などの情報提供も含めてより簡便なスクリーニングシステムが構築できるよう取り組んでいく。

愛媛大学済川先生、薬師神先生を中心に CSTD によるコアリングの調査を行っており、論文化をすすめている。

HD 暴露対策 がんの集学的治療専門部会の PDCA 活動として、各施設より年度ごとにアンケートを収集し、どういった改善を得られたかについて検討を継続している。

検討課題 放射線治療の紹介手順の簡素化、災害時の化学療法実施についてのバックアップ体制の構築、がんサバイバーシップ保持活動の提案、等。

《質問特になし》

8) がん看護専門部会（資料 12）

<がん看護専門部会 多田部会長>

- ・ 昨年度の活動報告

定例会を Web で 2 回開催した。コロナのため長期の研修は実施できていないが、追加で開催した Web 研修「ターミナル期の口腔ケア」は 50 名、「“人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン”の概要と臨床での活用」は 284 名、「ELNEC-J」では 40 名の参加を頂いた。アンケート調査からも、現場に持ち帰り活用できた、といった感想を頂いている。

- ・ 今年度の活動予定

定例の会議を Web で開催する。第 1 回 9/28、第 2 回 R4/1/25。

今年度の研修計画について

がん看護実践能力向上研修会は、例年 21 日間での集合研修であったが、今年度は 5 日間の Web 研修を計画している。5 日間のうち 2 日間は ELNEC-J の教育プログラムを取り入れ、修了者を対象にフォローアップ研修なども検討している。研修会の目的として、第 3 期がん対策推進基本計画の 3. がんとの共生 の中で特に、ライフステージに応じたがん対策、に重点を置き、今後は、ライフステージに応じた支援、エンドオブライフに主眼を置いた研修を実施していく。研修会の成果と評価については、従来通りのアンケート調査も実施するが、修了者から認定等の資格取得者が増加することが望ましいと考える。研修会の開催方法が変わることについては、1) 研修会の名称に「WEB」を入れる 2) 日ごとの参加も可能とし、受講期間を最長 2 年として参加しやすい状況をつくる 3) 集合研修が難しいことから、課題を明確化してのディスカッションや事例検討などを深めていくため、ファシリテーター（各施設で推薦された企画委員、主に四国がんセンター）に、2 日間程度、協力して頂く。などを部会で決定しており、コロナ禍での研修会の開催を可能な限り実施していきたいと考えている。引き続きよろしくお願ひします。

トピックス研修については、がん患者の精神症状、ELNEC-J を計画している。

《質問特になし》

9) 第 4 回 AYA 世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワークセミナーについて (資料 13)

＜がんの集学的治療専門部会 青儀部会長＞

AYA 世代対応ネットワーク・妊孕性ネットワークについては、愛媛大学の杉山先生と愛媛県立中央病院の石田先生が中心になってご活動頂いており、そこに当院の協議会会長の谷水が参加させて頂いた形で、愛媛県での AYA 世代対応ネットワークの構築、妊孕性温存に貢献していきたいと考える。3 年前から年に 2 回程度の研修会を開催しているが、コロナ禍でインターバルがあった。再開して今年の 8 月に第 4 回目の開催を計画している。ご協力をお願い致します。

＜愛媛大学 薬師神先生＞

研修会を愛媛大学の大学院講義として検討して認定することができる。対象の研修会があれば手続きをさせて頂くので、ご連絡下さい。

10) 愛媛県健康増進課より

＜保健福祉部健康衛星局健康増進課課長 菅様＞

各医療機関の皆様方には、がん対策の推進はもとより昨年来からの新型コロナの対応にあたりましては日々ご尽力頂いておりますこと、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。3 月の下旬から 1 カ月で陽性者の数が約 1,000 人となっており、これは、昨年 1 年間で確認された陽性者の数と同数である。収束にはまだ当分の時間がかかることが予想され、県においてもできる対策はうってまいりますので、各医療機関の皆様におかれましても、

引き続きご協力をお願い致します。

・昨年 4 月から開始している若年がん患者在宅療養支援事業について、昨年度の補助実績は 1 件にとどまった。今年度は、実施主体となって頂く市町が増える見込みもあるので、若年がん患者さんに対する在宅療養支援事業について、しっかりと周知広報をして事業を広めていきたい。

・第 3 期愛媛県がん対策推進計画中間評価のご協力をお願いについて、昨年 8 月の役員会において、本県の河野医療政策監より中間評価のご協力をお願いをさせて頂いたが、国の第 3 期がん対策推進基本計画の中間評価の公表が令和 3 年になったことから、県の中間評価についても、昨年度から令和 3 年度に変更させて頂いた。今後、多くの検討会を開催し、中間評価の作成を進めてまいります。年末を目途にがん対策推進委員の皆様にご意見を頂く予定としておりますので、引き続きご協力をお願いします。

5. 討議事項

コロナ対応の各施設の取り組みについて（別添資料 1 参照）※

6. その他

<愛媛大学 薬師神先生より情報提供>

来年度より、内科の専門医制度に伴った専門医研修が開始される。がん薬物療法専門医の研修について、臨床腫瘍学会が内科スペシャリティのひとつとなった。内科の研修は、通常 3 年間おこなった後専門医としての研修が 2 年～5 年間で、7 年間は研修が必要になるため、4 年間は施設でがんの研修を受けることになる。新しい専門医制度では、基幹施設、特別施設、連携施設の 3 つに分かれるが、連携施設の条件としても指導医またはがん薬物療法専門医が 1 名以上在籍していることが必要となるため、がん薬物療法専門医の取得を検討して頂けるとよい。

閉会の挨拶<四国がんセンター山下副院長>

本日は本当にお忙しい中、ご参集頂きありがとうございます。活発な議論、有意義なコメントを頂きまして、今後に役立ててまいりたいと思います。

閉会